



菅波 茂

知識と智慧ちかの違いは経験によ  
る優先順序の有無である。優先  
順序の付けられない知識の洪水  
は、イライラ感をもたらすだけ  
であり、知識は情報と言ひ換え  
てもいい。現在の通信情報技術  
の進歩はこのイライラ感に拍車  
をかけている。人間は年齢に応  
じた経験が必要とされている  
が、自分の人生の方向性を考え  
ざるを得ない、多感な高校生に  
国際的な現場経験を積む機会を  
与えてはあげたい。これが「高  
校生国際育成基金構想」の提案  
である。

公平さとは意欲と能力のある  
人にポジションやお金といった

機会を与えて、結果を出させる  
こと。差別とは意欲と能力があ  
るにもかかわらず、機会が与え  
られなくて結果が出せないこと  
だ。高校生には異なった社会環

## 高校生国際育成基金

境や文化を、貴重  
な経験として吸収す  
る能力は十分あり、  
自分の人生を積極  
的に考えていきたく

いとする意欲が、自  
我の発育とともに  
形成されつつある  
時期でもある。あ  
とは機会を手に入  
れるだけで結果は出  
るはずだ。

ネパール、インドなどが代表的  
な国だ。そこでは派遣されたス  
タッフが日本とは異なった社会  
環境や文化の下で、現地の人た  
ちとともに貧困対策や健康増進  
のプロジェクトを、貴重なみな  
さんのお金で実施している。3  
〜5年の実績を重ね、現地の人  
たちとの信頼関係も生まれてき  
ている。

AMDAインターナショナル  
はプロジェクトの現場を高校生  
に提供し、派遣されているスタ  
ッフが高校生のお世話をする。  
そして意欲ある高校生に現地を  
訪れる費用を無利子で10年間返  
済の機会を与える。これが「高  
校生国際育成基金構想」のエッ

AMD Aインターナショナル  
には国連NGOとして30カ国に  
支部があり、現在19カ国でプロ

ジェクトを進めている。アジア  
ではカンボジア、ミャンマー、

(アジア医師連絡協議会代表、  
題字は筆者)